

平成 29 年度の教育活動等に関する学校評価

基本目標：1)保育内容の 充実、2)大学・地域との連携、3)幼稚園運営の強化

九州女子大学附属折尾幼稚園

No.	基本 目標	【業務事業】 具体的施策	今年度の取組に対する自己評価	学校関係者の評価
1	保育 内容 の 充 実	[保育のスキルの向上] 様々なテーマに合致する園内研修 の実施	現状の把握およびニーズの確認、園内研修の在り方を検証しながら策定した研修計画には、保育活動に関する課題だけでなく、事業計画の内容や折尾幼稚園の経営要綱、学級経営案等を研修テーマに加え、計画的に園内研修を実施することができた。 幼稚園の課題の明確化、共通理解を図ることができ、日常的な保育活動を充実させることができた。	子どもとの会話や作品の出来栄等から、様々な研修内容を日々の保育で実践されていると評価できる。 子どもの安全対策についても、各教室の扉に手を誤ってはさまない工夫を施す等、職員間で共通の認識があり細部に配慮を感じられる。
2		[カリキュラムの充実] 保育内容の理解者増による教育コミュニティの構築	折尾幼稚園の教育が「自ら～する」という自主性、主体性、自律性を育むという教育が保護者に共通理解されているのか満足度向上のため、園の課題、個人の課題を整理し、解決に向けて実践を行った。 保育内容の改善を行ったことで、保護者に共通理解を図ることができ、理解者増に繋がった。	折尾幼稚園に入園して、多くの事を学び、経験することで日々の行動に成長が感じられ、自主性、主体性を育む教育の成果だと評価できる。 登園時にバスの運転手さんに対しても、園児が自然に挨拶できるような「自ら～する」を指導していただきたい。
3	大 学 ・ 地 域 と の 連 携	[地域の福祉施設等との連携] 園行事への参加、および地域団体との交流の促進	地域の方々が園の行事に参加し、子どもたちおよび保護者が地域の行事等に参加することで共通理解を図り、交流を深めることができた。 さらに、折尾幼稚園像の定着を目指して、地域交流につなげていく。	地域の方々と積極的に交流することで、折尾幼稚園の存在がアピールできていると評価できる。 今年度、初めて参加した「おりお祭り」や地域の行事に、継続して参加し地域の活性化に繋げてほしい。
4		[大学・地域のイベント等への参加] 大学・地域のイベント等への参加による幼稚園の理解促進	園外教育として、大学の学園祭、音楽発表会や地域の祭りや田植えなどに参加することで、教員の保育力の研鑽を図るとともに、幼稚園の理解促進に繋がることができた。	大学の附属幼稚園としての強みを生かして、大学の学園祭や観劇会等に参加することで、子ども達の情操教育となっていることは評価できる。 田植えや稲刈りなどに参加することで、子どもたちにとって貴重な体験となっていると実感できる。
5		[大学教員との連携] 大学教員との連携・協働による教員の質の向上	発達障害・感覚統合の理解、保護者支援等、近年、幼児教育の課題は複雑化し、専門的になっているため、大学教員との連携を図り、保育環境・教材研究・保育の姿勢など専門的知識の習得し、教員の質の向上に努めた。	大学教員による、体育教室や科学教室等子どもの能力に合わせた内容で行う正課の教室は、運動能力や発想力の養成として評価できる。 今後も、子どもの体力づくりや科学による新たな気づきが発見できる場として継続してほしい。

6		<p>[学生との連携] 学生企画のイベント等への参加、および学生とのコラボ企画による園のアピール</p>	<p>学生の行事等への参加を促進し、教員・子供たちと接する機会を可能な限り提供し、「すべての幼児に適した教育」を目指し、「子どもとして生きる能力」を育てるため、教職員全体で取り組むことができた。</p>	<p>大学の附属幼稚園として、学生がボランティアで行事に参加し、教職員と協働することで充実した行事となった。 また、ボランティア学生が関わることで、保護者の負担も軽減することができた。</p>
7		<p>[未就園児教室の充実] プログラムの提供、園行事への参加促進、ならびにクラス見学等への実施</p>	<p>4月に未就園児教室の見直し、新規計画の検討を行った。月に一度、未就園児教室「ふれあい広場」を開催して、季節の行事ならびに誕生会を行い、他の子どもたちと一緒に過ごすことに集団生活に慣れてもらった。保護者が幼稚園を選ぶ際に決めてとなる信頼関係を築くことで本園への入園に繋がった。</p>	<p>未就園児教室の先生の温かい対応や園の雰囲気などが、入園につながった理由としてあげられ評価できる。 今後も、保護者のニーズに応じた保育内容を期待する。</p>
8	幼稚園運営の強化	<p>[ホームページ等による広報活動の推進] 幼稚園教育のグローバルな世界を特色づけ、地域・保護者に対して園の理解を促進させる情報の発信</p>	<p>分かりやすいホームページ作りを心がけ、的確な情報発信を目指すため、毎年4月にホームページの見直しを行い、保護者等へのニーズを把握し情報発信を行った。保育の内容を知りたいとの保護者の要望で保育の様子をホームページに写真に添付し情報発信を行った。</p>	<p>ホームページでの情報発信により、園内教育の様子等を知ることができている。 保護者は、今の子ども様子を知りたいので、園行事の様子を速やかに掲載することで、より効果が期待できる。</p>
9		<p>[幼小連携プログラムの策定] 幼小連携を強化し、幼稚園の存在をアピール</p>	<p>インクルーシブ教育システムが重要視される中、理念に基づく幼小連携プログラムを年度当初に見直しを行い、各小学校とのスケジュール等の調整・協議を図り、スムーズな小学校就学に向けた連携をとることができた。</p>	<p>幼小連携を図るため、各小学校と本園担任とが意見交換していることは評価できる。 今後も、スムーズに小学校に就学できるように小学校と綿密に連携してほしい。</p>